



24時間レースって何？

「フランス24時間4x4」

完走率 6割の過酷なレース

「フランス24時間4x4」は、パリから50km南のシュヴァンヌという町外れで毎年開催される四駆&バギーの24時間レースだ。全長10km、横幅20mの特設サーキットで競われる。土の路面だけに、気候によって泥・土・コンクリート状と路面状況が激変する。第1回大会は1984年に開催。過去には、パリ-ダカ総合王者のステファン・ベテランセルや同クラス王者の浅賀敏則が参戦するなど、パリ-ダカの常連者も少なくない。'06年大会は102チームが出場。9月16日15時、ピナールさんらのジムニーは21列目からスタートした。ところが1時間余りでエンジンとクラッチに不具合が。日没後にスプリン

グなども破損して、一時は総合62番手まで後退。しかし、明け方までに31番手まで挽回し、ドライバーひとりが2時間40分ステアリングを握り続けた。その後再びクラッチが壊れ、メカニックたちの懸命な修理で再スタート。そして、ジムニーは総合29位、T2カテゴリー9位、排気量別クラス優勝という見事な成績でチェッカーを受けた。ちなみに完走は66台だった。同レースは、フランス耐久全路面(オフロード)選手権の最終戦も兼ねており、ハイパワーSUV勢相手に、ジムニーはその外見と馬力からは推し量れない抜群の走破性とスピードで、T2カテゴリーのシリーズ王者に輝いたのだ。



「僕はレースに情熱を傾けていて、いつも頭の中はそのことで一杯です。'80

ルさんだが、普段はフランス北西部のブルターニュ地方で自動車販売店を営んでいる。アネさんは林業関係、マシャボワヌさんはPSA(プジョー・シトロエン)の工場に勤務する完全なアマチュアチームだ。スポンサーを探しながら、現在は新たな挑戦として、スズキ・スイフトにグランヴィトラ(エスクード)のギアボックスとガソリンエンジン(J20A)を積んだプロトタイプを製作中だ。また、今後のプロジェクトとして、'08年の北京ラリー、'09年にはエタノール燃料で2度目のパリ-ダカ参戦を目指すという。

年代からパリ-ダカに参戦することを夢見ていました。2004年大会にバギーで参加して悲願達成。でもメカニカルトラブルで中間日にリタイアしてしまいました。本当に悲惨な思いをしましたが、また絶対に参戦しますよ」と、力強い眼差しで自分に言い聞かせているようだった。

「ところで、近々新型ジムニーが発売される予定はないんですか？それなら計画を変えて」と、興味深そうに質問が飛んできた。「モロッコの砂丘でもジムニーはスタック知らずだった」と、絶対の自信を持つピナールさんだけに、ひよっとするとジムニーでパリ-ダカに挑む構想を練っているのかも!?

現在は新たな挑戦としてスイフトにエスクードのギアボックスとエンジンを載せたプロトタイプを製作中。北京ラリーやパリ-ダカ参戦を見据えている。